

世界規模で開発や防災



「3か月に1回程度海外に出張します。最近はいスライアやチニアに行きました」と話す小野さん（東京都渋谷区の国連広報センターで）＝菊政哲也撮影

国連職員

しごと ズギト

小野舞純さん 44

国際連合（国連）事務局職員として、米ニューヨークの本部で働いています。国連では今、2030年に達成を目指す「持続可能な開発目標」を作っていて、昨年2月から、担当チームのリーダーを務めています。

* 英語でやり取り

防災の視点も開発目標に入れられないかと考え、今回3月に仙台で開かれた国連防

災世界会議に出席するため、日本に一時帰国しました。上司は事務総長特別顧問を務めるナイジェリア人で、チームメンバーは、イタリア人やカメルーン人、フランス人など約10人。上司や潘基文事務総長などが出席する会議に同席しながら、事務局案をまとめます。すべて英語でやり取りします。



スケジュール管理に手帳やスマートフォンは手放せない

国後も英語教室に通って英語力を維持し、高校卒業後は米国の大学に進学。米国での大学院時代、国際的な仕事をしたいと考えていたところ、友人に「受けてみたら」と勧められて国連を受験し、1995年から勤務しています。これまで、バンコクに2年間駐在してアジア太平洋地域の貿易を促進させる仕事をしたり、国連本部で経済社会理事会の事務局の作業をしたりしてきました。

* 高い志の仲間

最近、職場で「宝くじが当たったらどうする？」とおしゃべりしていたんですが、ハイチ人の同僚は「病院を作りたい」、ペルー人は「初等教育を整備する」と言っています。志を持った仲間と一緒に働けるのは素晴らしい

難関の採用試験

国連事務局には、2014年6月現在、188か国の4万人を超える職員が働いています。職員になるには、国連の採用試験に合格する必要があります。32歳以下の若手向けには、それまでどこかで働いた経験がなくても応募できる募集枠があります。試験は年に1度、英語かフランス語で行われます。日本人の採用者が全くいない年もある難関です。

ことです。国連の仕事はスケールが大きく、今、立てている目標年限の2030年というのは、自分が60歳になる頃です。その時、やって良かったと振り返ることのできる仕事をしなければと思っています。（聞き手・山田睦子）